

2025 年度歴史文化をめぐる地域連携協議会

学校と地域歴史遺産—これまでと、これから—

人文学研究科地域連携センターでは、2002 年の設立以来、兵庫県内を中心に、地域住民と協働した地域歴史遺産の掘り起こしと、その保全・活用に取り組んできました。地域連携に取り組むにあたって私たちが「地域」と捉える範囲は、自治体であったり、近世村の流れを汲む自治会であったりと、時と場合によって異なります。そうした「地域」のひとつに、学校とその通学圏で構成される「地域」があります。

公立の小・中学校の多くは、以前は明治期の村域に基づいて学区が設定されていました。その範囲で地域の歴史や文化を学ぶ活動が行われ、それが世代を超えた歴史文化の継承に大きな役割を果たしてきました。小中よりも広域の学区が設定される高等学校でも、地歴部などの活動を通して、地域の歴史に根ざした活動が行われてきました。

また学校には、沿革史・日誌・学校だよりや、行事の記録写真のような、学校の歴史を伝える資料に加え、地域から寄贈された考古資料・古文書・民具などの所謂「学校資料」が保管されてきました。学校は教育の場であると同時に、地域歴史遺産を保全・活用し、そして継承する拠点でもありました。

しかし、近年の少子化や平成の大合併の影響により、都市部・農村部を問わず学校の統廃合が進んでいます。小・中学校のみならず高等学校にもその影響は及び、兵庫県内では過去 25 年間で、小中高あわせて 200 校以上が減少しています。学区の広域化により、学校が特定の地域に根ざした活動を行うことが難しくなり、地域文化の継承の機会が減少しています。加えて、統廃合に伴う校舎の解体や転用によって、学校資料の散逸、廃棄も危惧されています。

こうした現状を踏まえ、本年度の地域連携協議会では「学校と地域歴史遺産」をテーマとしました。学校での地域調べや、学校資料の保全・活用に関する実践的な取り組みを報告いただき、学校が果たしてきた地域文化の担い手としての役割や、学校資料の価値と可能性を改めて検討し、再認識する機会としたいと思います。そして、学校の統廃合や学校資料の散逸という事態に対して、何をすべきか、何ができるのかについて協議していきたいと思います。

日程：2025 年 12 月 20 日（土）13:00～17:00

会場：神戸大学大学院人文学研究科 B 棟

詳細については、後日お知らせします。